

「施設実習」 座談会

～実習から学ぶ、実際のあれこれ～

「実践」に重きを置く子ども教育学科では、実際の現場に出る「学外実習」を行っていましたが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で初めて「学内実習」も行いました。今回は、それぞれの実習を経験した先輩たちに、その内容や感想を座談会形式で語ってもらいました。



座談会参加メンバー

子ども教育学科3年 藤嶋 夕日 | 羽水高校出身 |
◎実習先:児童養護施設

子ども教育学科3年 本田 結愛 | 金津高校出身 |
◎実習先:障害福祉サービス事業所

子ども教育学科3年 東 桜花 | 三国高校出身 |
◎実習先:児童発達支援センター

子ども教育学科3年 谷口 敦美 | 羽水高校出身 |
◎学内実習のみ

まず、学内実習についてお聞きしたいと思います。



谷口/ろう者の方や車椅子バスケットボール選手などから直接お話を聞かせていただいたり、児童養護施設についてのビデオを見たり、障害のある子どもがいるクラスを想定したレクリエーションの考案・実践および意見交換を行ったりしました。“障害者である以前に一人の人間”という言葉に「そうだ!」と気づかされ、大切にしたいと思いました。

学外実習について聞かせてください。



東/私は、児童発達支援のクラスを担当し、放課後等デイサービスでの実習を行いました。特に試行錯誤したのは、コミュニケーションです。通っている子どもと話したいと思って投げかけた質問が伝わらず、何度も

質問を繰り返してしまい、困らせてしまいました。その場面を見ていた職員の方が、質問を変えたり、自分のことを先に話したりすると会話がうまくいく場合があると教えてくださいました。

藤嶋/言葉でのコミュニケーションの難しさは、私も感じました。私は、児童養護施設での実習だったので、家事や入浴、宿題のサポート、子どもたちと一緒に遊ぶことなどを通して、コミュニケーションを学びました。とくに子どもへの「注意の仕方」は、年齢や背景を考えなければならぬので、とても難しいと感じました。「怒られた」というネガティブな感情が大きくなるように、的確に伝える大切さを学びました。



東/実習を通して「障がい」へのイメージが大きく変わりましたね。

本田/私も同じです!私は、障害福祉サービス事業所での実習だったので、生活全般を支える生活介護事業と、主に仕事を支える就労継続事業を2日間ずつ体験しました。最初は、利用者の方と接することに不安を感じていたのですが、関わっていくうちに、利用者の方の優しさやピュアな心を感じる場面が多くなって、最後には不安よりももっと関わりたい!知りたい!と思うようになりました。



みなさん、学外学習でも学内実習でも施設や利用者の方の実際など、実習でしか知り得ないことを、着実に学ぶ時間となったようですね。

学科の魅力をSNSで発信!

「子ども教育学科PR隊」

Check

学生や教員がそれぞれに「魅力」と感じるシーンを自由に投稿しています。

子ども教育学科の様々な魅力を、学生自らSNSを通して発信するPR隊が活動中です。2021年秋より募集を開始し、現在、各学年1~2名ずつの学生5名と、教員4名で構成されています。授業風景やフィールドワーク活動、学内施設・教員の紹介、実習前後の感想など、SNSで情報を収集して発信することによって、自分たちの学びの活動を振り返

ることを目的としています。4年生の活動を1年生が見れば、上級生になった時のイメージができます。仁愛大学・子ども教育学科で学ぶことを視野に入れる高校生にとっては、パンフレットとは一味が違うリアルな情景をコンスタントにチェックできるツールにもなります。ということで、高校生の皆さん、まずはQRコードを読み込んでみてください!



Instagram



Facebook



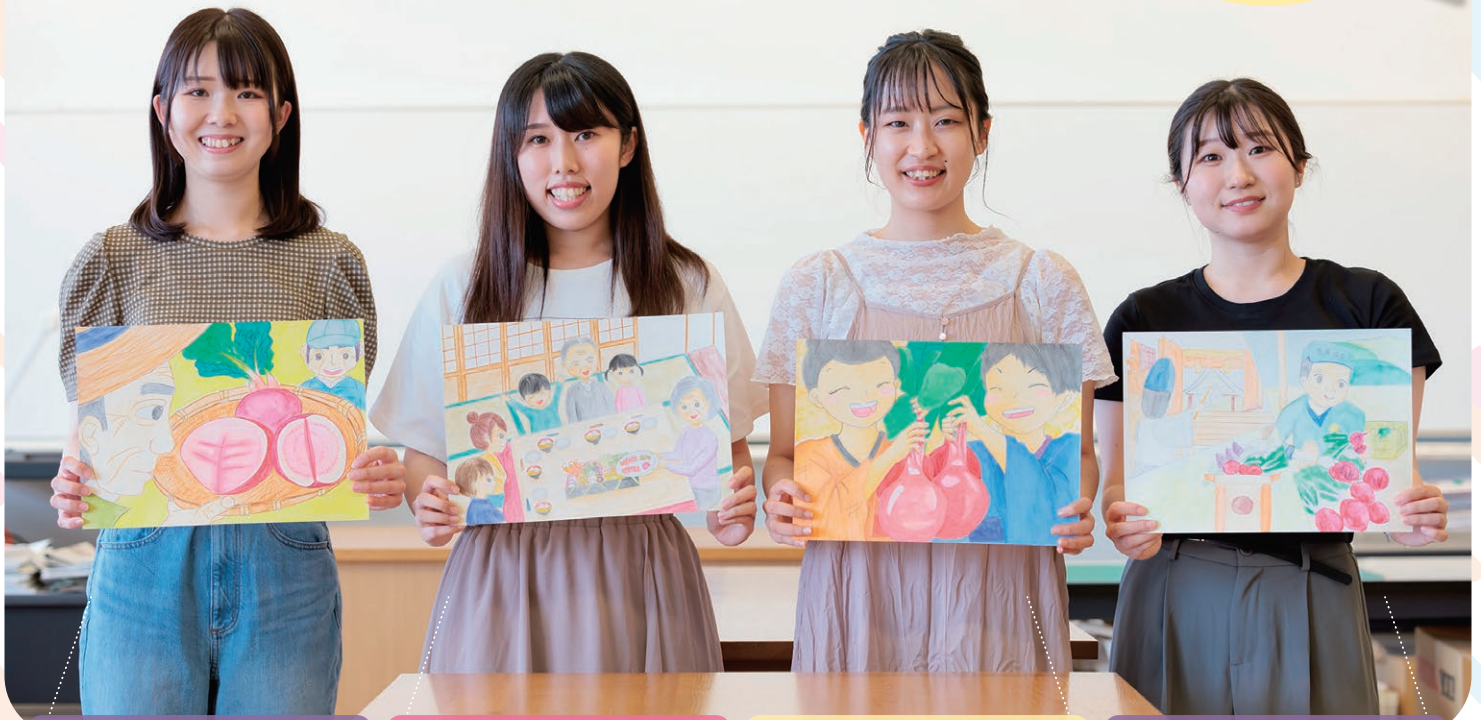
子ども教育

通信

～FAA活動～

学びを通して地域課題に挑戦!

※FAAとは「Fukui Academic Alliance」。人口減少や長寿
命化、急速な技術変化など、福井県の大きな環境変化に対
応するため、各大学等がそれぞれの魅力や特色を活かして
産学官の連携を深めながら地域課題に取り組む活動です。



東京の料亭でも使われている、
杉箸アカカンパ。
知ることができてよかった!

子ども教育学科4年
嶋 彩花 | 坂井高校出身 |

子どもたちにとっての
読みやすさにこだわるのが、
大変でした。

子ども教育学科4年
清水 美結 | 鯖江高校出身 |

明るい雰囲気にしたくて、
明度の高いトーンで
色彩を調整しました。

子ども教育学科4年
道關 梨奈 | 丸岡高校出身 |

杉箸アカカンパの歴史など、
情報収集していくのが、
楽しかったです。

子ども教育学科4年
宮 櫻有奈 | 鯖江高校出身 |



子ども教育学科
伊東知之 教授

絵本の制作を通して、地域の貴重な食文化の保持に貢献する体験。

福井県敦賀市杉箸で150年以上栽培が続く伝統野菜の赤カブ「杉箸アカカンパ」。その食文化を県内の子どもたちへ周知し、残していくために、伊東ゼミの学生が絵本を手掛けました。始まりは、敦賀市の伝統野菜を研究している坂本聡さんからの依頼でした。当初は、“紙芝居を作ってほしい”というご要望でしたが、紙芝居を一点用意するより、もっと多くの子どもたちに触れてもらう方法として絵本を選択。まずは「杉箸アカカンパ」

についてインターネットや文献を調査し、得た情報を用いて構成を考え、文章を綴り、下描きをし、着色を施していきました。絵本は、1300部を印刷・製本しました。今後は、県内の各教育機関・施設に贈呈していく予定です。学生にとっては、制作を通して故郷の伝統野菜を知り、地域貢献ができる有意義な機会になりました。将来、教育環境で実際に読み聞かせの絵本として使い、働く励みにもしてもらえたらと願います。